



平成25年度 果樹情報 第10号

(平成25年8月8日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況（7月後半：果樹研究所）

7月4～6半旬の平均気温は、4半旬が20.4℃で平年より3.2℃低く、5半旬が21.1℃で平年より3.2℃低く、6半旬が23.8℃で平年より1.6℃低い状況でした。この期間の降水量は231.0mmで平年の367%でした。

2 土壌の水分状況（7月31日現在）

果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmは1.1、深さ40cmは0.6、深さ60cmは1.5となっており、深さ20cm～40cmでは過湿状態となっています。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（8月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると「あかつき」は縦径が69.6mmで平年比105%、側径が79.2mmで平年比107%と平年より大きく、「ゆうぞら」は縦径が58.2mmで平年比104%、側径が56.7mmで平年比103%と平年よりやや大きい状況です。また、満開後日数による比較では「ゆうぞら」が平年並みの状況です。

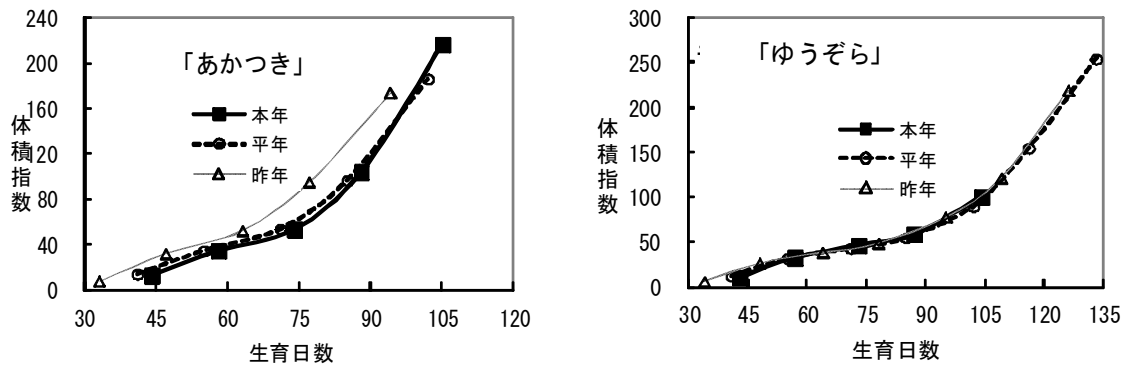


図1 ももの果実肥大（満開後日数比較）

イ 新梢生長（満開後99日）

「あかつき」の新梢生長は、新梢長が12.5cmで平年比92%と短く、展葉数は13.5枚で平年比84%と少ない状況です。また、葉色（SPAD値）は平年比103%とほぼ平年並、新梢停止は早い状況です。

ウ 早生～中生品種の収穫期と果実品質

「日川白鳳」の収穫始めは7月16日で平年より1日早く、収穫盛りは7月18日で平年より2日早い状況でした。果実の大きさは236gと平年よりやや大きく、糖度は9.6で平年より低い状況でした。

「暁星」の収穫始めは7月22日で平年より1日早く、収穫盛りは7月29日で平年より2日遅い状況でした。果実の大きさは239gと平年より大きく、糖度は11.5で平年より低い状況でした。

「あかつき」の収穫始めは8月2日で平年並みの状況でした。

(2) なし

ア 果実肥大（8月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると「幸水」は縦径が56.6mmで平年比107%、横径が71.2mmで平年比110%、「豊水」は縦径が55.8mmで平年比106%、横径が64.0mmで平年比109%と、両品種共

に平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較では、両品種共に平年よりやや大きい状況です。

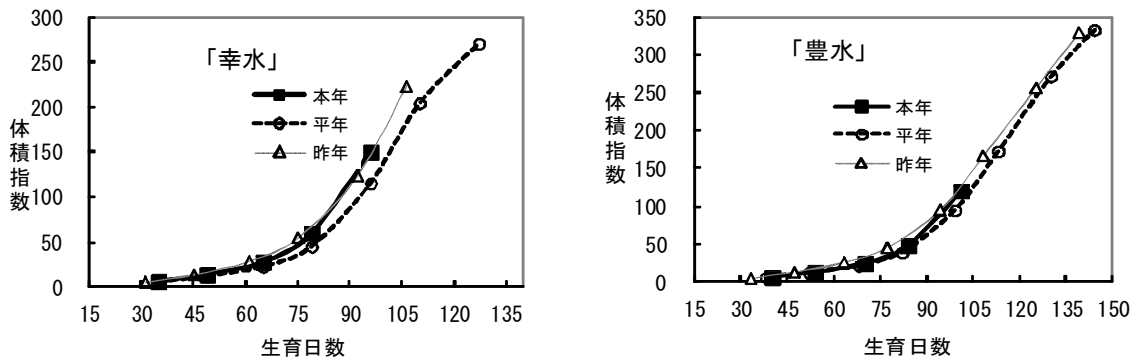


図2 なしの果実肥大（満開後日数比較）

イ 新梢生長（満開後80日）

「幸水」の予備枝新梢長は107.1cmで平年比94%、不定芽新梢長は92.1cmで平年比94%と、平年より短い状況です。

「幸水」の予備枝新梢伸長停止日は7月12日（平年：7月16日）で平年より4日早く、「豊水」は7月9日（平年：7月14日）で平年より5日早い状況でした。

ウ 裂果の発生

「幸水」の裂果発生率は3.1%（平年4.4%）で、ここ数年の中では高いものの、平年よりやや低い発生状況でした。

エ 収穫予測

DVRモデルによる「幸水」の収穫予測では、収穫盛期が8月31日頃で平年より2日早いと予測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大（8月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると「つがる」は縦径が69.8mmで平年比106%、横径が80.0mmで平年比106%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が59.9mmで平年比101%、横径が67.0mmで平年比103%とほぼ平年並の状況です。また、満開後日数による比較では、両品種共に平年よりやや大きい状況です。

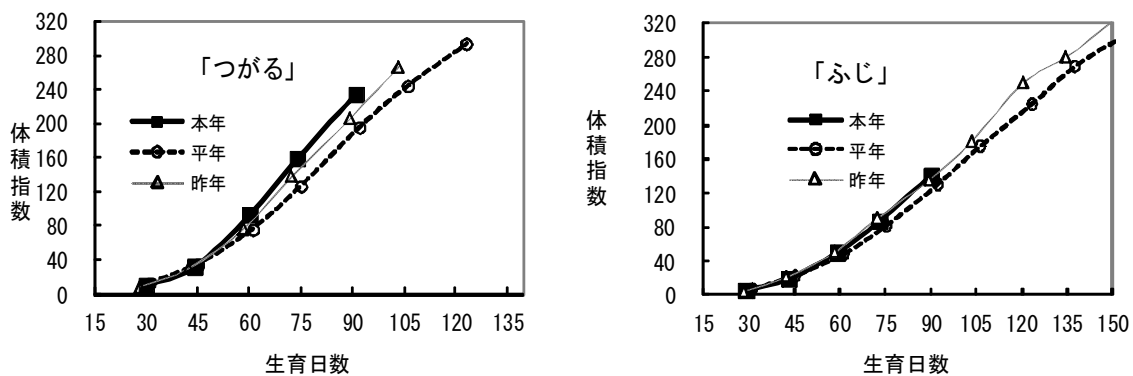


図3 りんごの果実肥大（満開後日数比較）

イ 果実の成熟状況（満開後88日）

「つがる」の果実の成熟状況は、硬度が14.4ポンド、デンプン指数は1.4、RM示度は9.8、リンゴ酸は0.39%であり、平年と比較して果肉硬度が低く、クロロフィルの消失が早い傾向となっています。

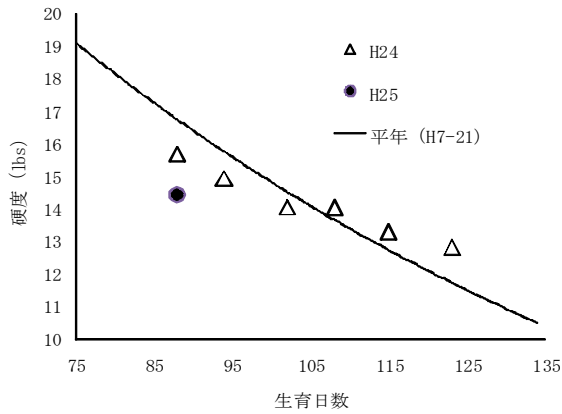


図4 「つがる」の果肉硬度の推移

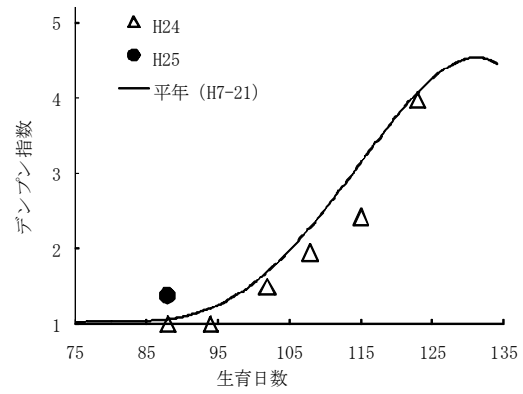


図5 「つがる」のデンプン指数の推移

※指数1 (未消失) ~ 指数5 (ほぼ消失)

(4) ぶどう

ア 着色期

「巨峰」の着色開始期は、有核栽培樹では7月21日（昨年7月28日）、無核栽培樹では7月22日（昨年7月29日）でした。また、「あづましずく」一文字整枝の着色開始期は7月19日（昨年7月25日）、自然形整枝（露地栽培）の着色開始期は7月11日（昨年7月21日）でした。

イ 「あづましずく」の成熟状況

満開後50日（7月31日）の成熟状況は、RM示度12.6、酒石酸含量1.27%、果実カラーチャート値7.2となっています。

表1 「あづましずく」成熟状況（7月31日）

	1粒重(g)	RM示度	酒石酸(%)	カラーチャート値
8年生短梢一文字型整枝（露地）	12.0	12.6	1.27	7.2
（収穫の目安）	11~15	16.5以上	0.5以下	9.0以上

※ カラーチャート値：果実カラーチャート（ブドウ赤・紫・黒色系）

4 栽培上の留意点

(1) もも

ア 中生種の収穫

「あかつき」等の中生種では、核障害の発生や成熟期の日照不足などにより、果肉先行の生育となるおそれがあります。特に核割れ果や胚に障害を受けている果実は成熟が早まる傾向があるため、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないように注意しましょう。

イ 晩生種の収穫前管理

「川中島白桃」「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

(2) なし

ア 修正摘果

「幸水」の裂果期（満開80~95日頃）は終了したので、早急に修正摘果を実施しましょう。修正摘果では、裂果した果実、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が白い果実（肥大が停滞しやすい）及び満開後100日（8月5日）頃の横径が60mm未満の小さな果実を摘果しましょう。

「豊水」は満開後100日（7月31日）頃を目安に小玉果と変形果を摘果しましょう。

(3) りんご

ア 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤としてストッポール液剤を用いる場合は、収穫開始予定25日前頃に散布しましょう。（果樹研究所の普通系「つがる」の平年の収穫開始日は8月28日、着色系統はこれより収穫期が早いので、散布時期が遅れないように留意しましょう。）

イ 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施しますが、本年は7月下旬まで曇天日が続いたため、今後、急激に気温が高まった場合、日焼け果の多発が懸念されます。直射日光が当たらない部位から行い、日焼け果の発生状況を確認しながら徐々に実施しましょう。

ウ 修正摘果

中晩生種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行いましょう。

(4) ぶどう

ア 摘心（長梢せん定栽培）

一定の葉数が確保された8月以降の摘心は、果実品質向上と新梢の充実を目的に実施します。

8月上旬になっても伸長が続いている強い新梢は、20～25葉程度を目安に摘心を実施しましょう。摘心を実施した後も棚下が暗い場合は、新梢の間引きを行いましょう。このとき、間引く本数は必要最小限にとどめます。また、副梢の摘心も同時に行いましょう。摘心および伸長を停止した新梢から発生した勢力の強い副梢は、基部の2～3葉を残して摘心しましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、炭疽病

「ふじ」殺菌剤無防除樹における褐斑病の発病葉率は39.0%と昨年（19.6%）より多く、7月下旬以降増加している状況です。斑点落葉病、褐斑病および輪紋病の防除対策として、8月上旬の防除を徹底しましょう。

なお、炭疽病の発生が多い園では、本病に効果のある薬剤を選択し、8月上旬の防除を実施しましょう。

イ もも灰星病、ホモプシス腐敗病

天候の推移に注意しながら、灰星病防除剤を散布しましょう。花腐れの発生が多かった園では散布間隔が空きすぎないように注意し、多雨条件が続くような場合は収穫期間中も防除を行いましょう。なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に十分注意しましょう。

晩生種に対してはホモプシス腐敗病の防除対策も必要であるため、8月10日頃に本病に効果のある薬剤を散布しましょう。

ウ なし黒星病

「幸水」では、8月上旬頃までに感染した果実は収穫期に発病するおそれがあり、発生が多い園では注意が必要です。本病の発生が見られ、散布間隔が前回の散布から10日程度あいている場合は、ただちに本病に効果のある薬剤を散布しましょう。なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）には十分注意してください。

(2) 虫 害

ア モモノゴマダラノメイガ

発生が多い地域では、中晩生種を対象に8月中～下旬に防除を行いましょう。発生が続く場合は、散布10日後にも防除してください。なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）には十分注意しましょう。

本種はクリやカキなどにも寄生します。本種の発生が多いもも園で、近隣にくり園やかき園がある場合は、それらに対しても防除を行いましょう。

イ モモハモグリガ

モモハモグリガ第4世代幼虫の防除適期は平年並の8月4半旬頃と推定されます。発生が多い園ではただちに防除を行いましょ。

本種の発生には防除が十分行われていないハナモモ園や放任園などが影響していると考えられるので、園主や近隣住民とよく話し合い、防除や伐採を行いましょ。

ウ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第3世代幼虫の防除適期は8月4半旬頃と推定されます。

第3世代以降はなし果実への寄生が増加すると考えられます。また、高温が続いた場合、8月中旬以降に交信かく乱剤の揮発量が減少し、防除効果が低下することがあります。例年、なしで果実被害が多い場合や、近隣のもも園における芯折れの発生が多い地域では、第3世代以降に対する防除を必ず実施しましょ。

エ カメムシ類

山間及び山沿いの果樹園ではカメムシ類の被害を受けやすいので、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょ。

オ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃になると考えられます。

カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょ。

カ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉に雌成虫1頭）に達したら速やかに防除を行いましょ。

表2 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成25年8月1日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第4世代 成虫盛期	第5世代 防除適期	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月13日	8月17日	8月17日	8月23日
平年並み	8月15日	8月19日	8月20日	8月27日
2℃低い	8月17日	8月21日	8月23日	8月31日

注) 演算方法は三角法による。

起算日 モモハモグリガ：7月27日、ナシヒメシンクイ：7月24日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>
農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://www.cns.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyouchou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>